

令和6年度病害虫発生予察注意報第7号

令和6年9月2日
愛知県

作物名：ナシ、カキ、カンキツ等
病害虫名：果樹カメムシ類

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 やや多い
- 3 注意報発表の根拠

(1) 新城市に設置した予察灯において、果樹カメムシ類の8月第1半旬から8月第5半旬までの誘殺数の合計が各種とも過去10年間と比較して多い。(各カメムシの予察灯における誘殺数については、下図参照)

- ・チャバネアオカメムシは本年216頭(平年133.0頭、昨年91頭)となり、過去10年で3番目に多い。
- ・ツヤアオカメムシは本年148頭(平年20.3頭、昨年20頭)となり、過去10年で最も多い。
- ・クサギカメムシは本年609頭(平年268.5頭、昨年221頭)となり、過去10年で2番目に多い。

(2) 7月下旬に行ったヒノキ球果の口針鞘数調査の結果、県内各地点においてすでに多くの地域で果樹カメムシ類の果樹園への飛来が始まっていると推定される。

(3) 8月29日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高い見込みであり、果樹カメムシ類の活動に好適な条件となる。

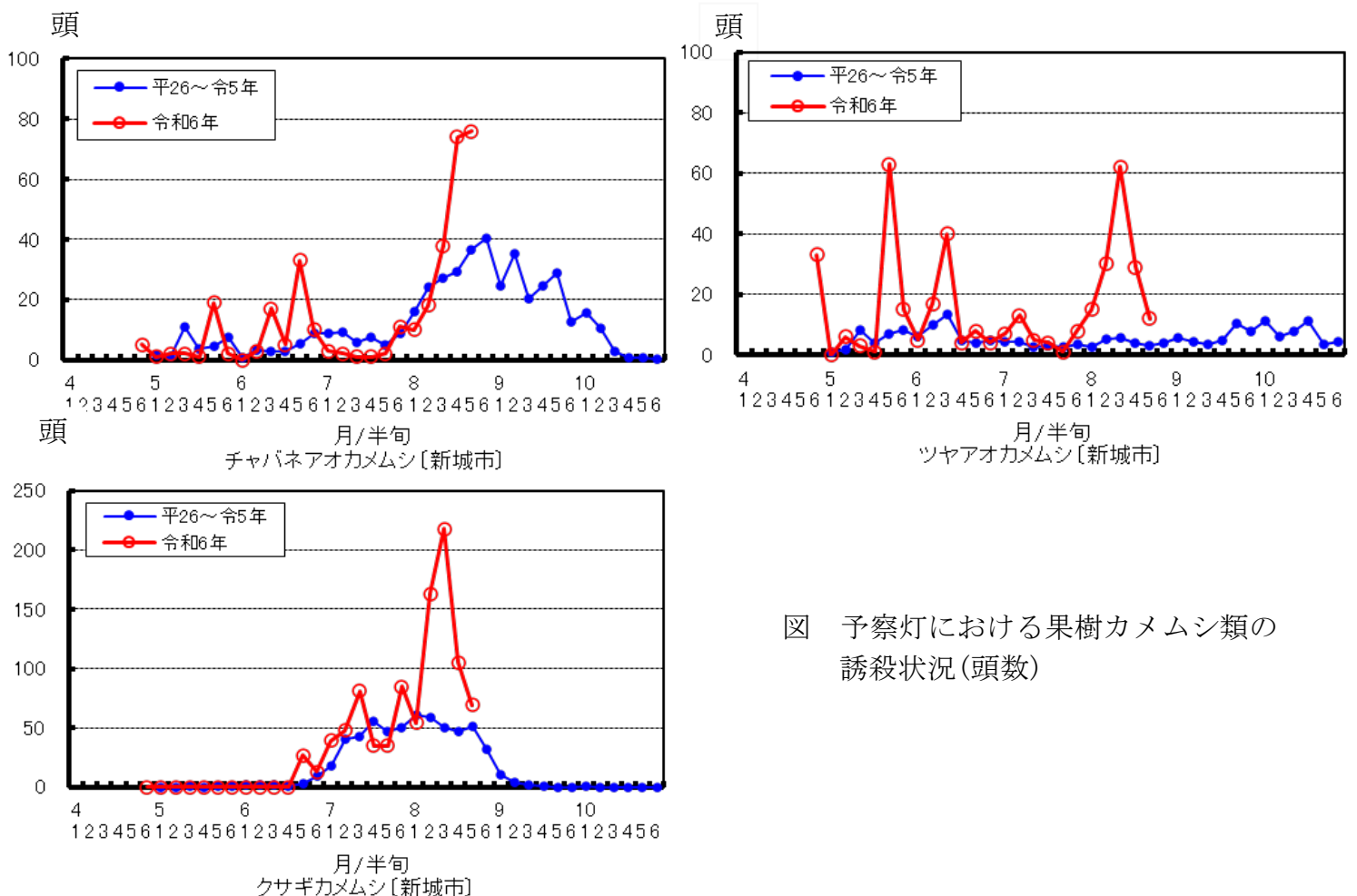


図 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺状況(頭数)

4 防除対策

- (1) 果樹カメムシ類は夜温が高く風の弱い夜に果樹園へ飛来することが多い点を参考にして、ほ場での飛来状況をよく確認する。局地的に飛来し、集中的に加害する傾向があるため、被害の発生状況は園地間差が大きい。過去に果樹カメムシ類の被害が多かった園や山林に近い園では特に注意する。
- (2) 発生を確認したら、次表を参考に薬剤を散布する。収穫中のほ場における薬剤の使用にあたっては、収穫前日数に注意する。

表 なし、かき、かんきつのカメムシ類に対する主な防除薬剤

作物名	薬剤名	成分名	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
なし	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム	収穫前日まで	3回以内	4A
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	ジノテフラン	収穫前日まで	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	クロチアニジン	収穫前日まで	3回以内	4A
	テルスターフロアブル	ビフェントリン	収穫前日まで	2回以内	3A
かき	キラップフロアブル	エチプロール	収穫7日前まで	2回以内	2B
	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム	収穫3日前まで	3回以内	4A
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	ジノテフラン	収穫前日まで	3回以内	4A
	アグロスリン水和剤	シペルメトリン	収穫前日まで	3回以内	3A
かんきつ	アクタラ顆粒水溶剤	チアメトキサム	収穫14日前まで	3回以内	4A
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド	収穫14日前まで	3回以内	4A
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	ジノテフラン	収穫前日まで	3回以内	4A
	ダントツ水溶剤	クロチアニジン	収穫前日まで	3回以内	4A
	テルスターフロアブル	ビフェントリン	収穫前日まで	3回以内	3A

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdfを参照する。

薬剤散布の際は、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室

電話：0561-41-9513